

令和元年度 保健福祉委員会行政視察報告

1. 視察期間 令和元年11月13日（水）～15日（金）

2. 出席者

(1) 委員

委員長 石川 義弘、 副委員長 松尾 伸子

委員 中嶋 恵、 掛川 暁生、 青鹿 公男、 伊藤 延子、 石塚 猛、  
堀越 秀生

(2) 同行理事者

福祉課長 雨宮真一郎、 国民健康保険課長 大網 紀恵

3. 視察先及び調査事項

(1) 広島県呉市 地域支え合いセンターについて

糖尿病性腎症等重症化予防事業について

(2) 愛媛県西条市 A I ロボットによる高齢者見守り支援について

(3) 愛媛県今治市 サン・アビリティーズ今治について

4. 調査の概要

別紙のとおり

## 【広島県呉市】

## 1. 市の概要

人 口 2 2 2, 6 2 6 人 (令和元年8月31日現在)

面 積 3 5 2. 8 1 km<sup>2</sup>

## 主な特色

- ・瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市である。
- ・陸地部の北部には、灰ヶ峰、野呂山を始め、標高300mから800m前後の山が連なり、市域全体を通じて平坦地が少なく、集落が分断された形となっている。
- ・山と海の風光明媚な自然に恵まれ、瀬戸内の美しい島々や多彩な峡谷美の景観は、貴重な観光資源として、また市民の憩いとレクリエーションの場としても親しまれている。

## 2. 調査事項

地域支え合いセンターについて

糖尿病性腎症等重症化予防事業について

## (1) 地域支え合いセンターについて

## ア. センター設置までの経緯

平成30年7月豪雨により、呉市では死者28名（令和元年10月28日現在）、家屋・住宅の被害件数3,224件（令和元年10月27日現在）と甚大な被害を受けており、早急な被災者支援を行う必要があった。被災者支援における課題は、大きく分けて3つあった。

1点目は、被災者の孤独死、自殺の発生を防ぐことである。被災したことによって、大きな精神的・身体的ストレスが加わり、また、従来のコミュニティが崩れ、生活環境も変化することにより、仮設住宅入居者等の孤独死、自殺が発生しないよう、新たなコミュニティにおける見守り活動や交流促進が必要であった。

2点目は、被災者の早期の生活再建を支援することである。生活環境の変化に対する相談対応や生活支援が不十分で、要介護度の上昇や生活困窮者の増加などにより、被災者の生活再建が遅れないよう、被災者の多様な課題や相談に適切に対応する体制整備が必要であった。

3点目は、効果的な連携支援のための基盤を築くことである。被災者の課題を解決に導くためには、行政だけでなく、専門機関やNPO等の被災者支援関係者と連携協力・調整等を行う機関が必要であった。

このような課題に対応するため、新たに必要人員を確保し、被災者を総合的に支援する体制として、県からの働きかけの下で、地域支え合いセンターが設置された。

## イ. センターの概要

平成30年10月15日に、市社会福祉協議会の委託運営で開設された。当初は、被害が大きかった天応地区と安浦地区の2拠点で活動していたが、平成31年4月からは新たに中央拠点を開設し、3拠点で活動している。

## ①対象者

応急仮設住宅・借り上げ仮設・公営住宅等の被災者を対象とし、在宅被災者は、保健所（健康増進課）が担当とした。

## ②活動の主な内容

- ・訪問による見守りや相談

- ・サロンの開催等による入居者や住民との交流機会の提供などの孤立防止支援
- ・健康相談等による健康維持支援

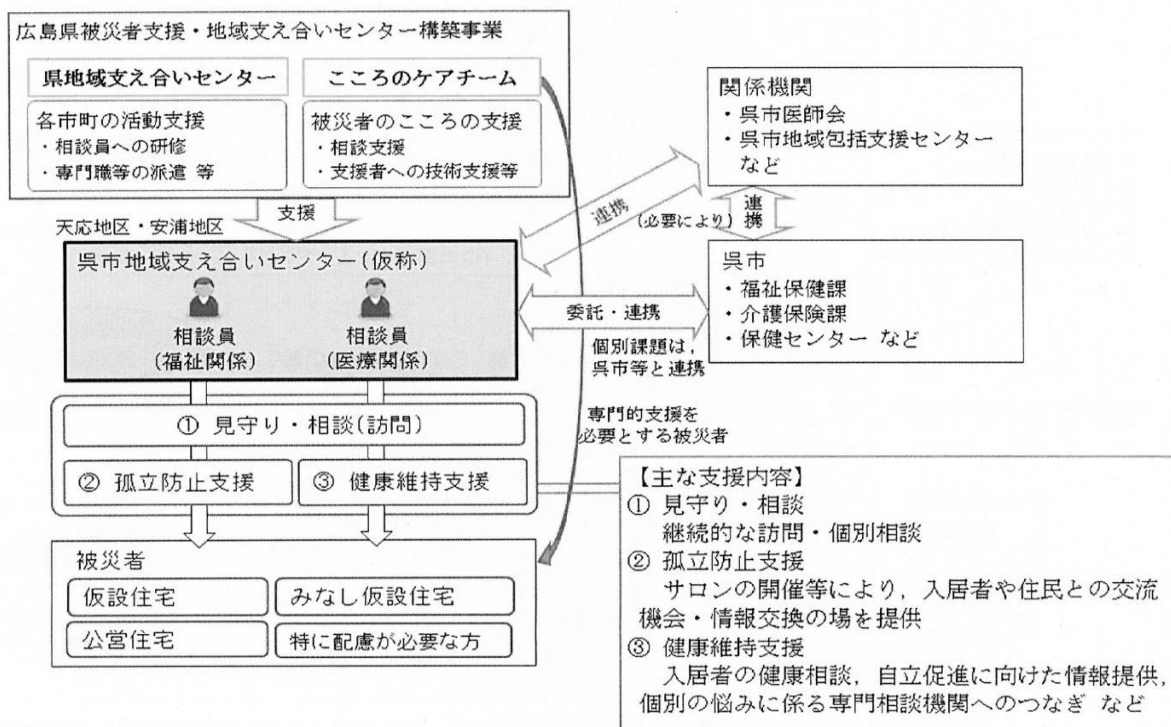
③職員体制

福祉的な相談や孤立防止支援を行う福祉関係の相談員や、健康維持支援を行う医療関係の相談員を配置した。

④情報システムの開発

センターの対応状況（記録等）の確認や、在宅被災者を支援している保健所（健康増進課）が閲覧することが可能な情報システムを導入した。

■地域支え合いセンター事業実施イメージ



(呉市資料より)

ウ. センターの具体的な活動内容と事業効果

①被災者の課題やニーズ把握

戸別訪問により、被災者それぞれの基本的情報や生活・健康状態、課題等について把握する。

②個別支援計画の作成

住まいごとに被災者の暮らしの中での課題が異なるため、それぞれの状況に応じた計画を作成する。

③見守り・巡回訪問

生活支援相談員等による仮設住宅等の巡回訪問を実施し、現在の生活状況や健康状態等を聞き取るなど、見守りや安否確認を行う。また、要支援者には交流活動等への参加を促す。

【具体的事例】

- ・独居の男性宅を訪問した際、立ち上がりが困難で自力歩行できない状態で発見し、病院受診に同行した結果、入院し適切な治療を受けることができた。
- ・妄想、幻覚、幻聴の症状が続く方を各専門機関（地域包括支援センター、心のケアチーム、

保健所)へ紹介し、病院受診に同行して適切な支援を行った結果、最近では落ち着いた生活を送れている。

#### ④相談受付、専門機関等へのつなぎ

生活再建を支援する総合相談窓口として、被災者の抱える課題や困りごと等に対応する。また、被災者の生活・健康上の課題など、それぞれに応じた適切な支援先へのつなぎ、関係情報の提供等を行う。

##### 【具体的事例】

- ・精神障害を持ち、金銭管理ができず借金もある方からの相談を受け、金銭的、精神的な課題により、みなし仮設住宅を入居期限が過ぎても退去できずにいたが、福祉の窓口（生活困窮者自立支援事業）、かけはし（日常生活自立支援事業）を紹介したことで、支援が入り退去することができた。現在は、相談先がある安心感から落ち着いて生活を送れている。

#### ⑤地域づくりの取り組み

仮設住宅団地の集会所等を利用したサロン活動の実施や、住民同士の語り合いの場の設定等、被災住民同士の交流を促す。

##### 【具体的事例】

- ・被災経験や悩みを話し合える相手が近くにいないというみなし仮設住宅入居者の声を受けて、被災者交流会を実施し、同じ立場である被災者からのアドバイスで生活再建への一歩を踏み出すことができている。

#### ⑥関係機関等との連携

地域支え合いセンターが、関係者をつなぐハブとしての役割を担う。また、専門機関や自治組織、関係団体へ日常的に情報交換や連絡調整を行う。

##### 【具体的事例】

- ・応急仮設住宅の世話人と定期的に会議を実施している。当初は保健センターや地域包括支援センター、ボランティアとの活動調整を地域支え合いセンターが行っていたが、徐々に調整役を世話人にシフトさせ、現在は世話人が応急仮設住宅の自主運営を円滑に進めている。
- ・寝たきりの家族がいる世帯の避難行動について、関係機関（居宅介護支援事業所、保健センター、地域支え合いセンター）で協議することにより、家族も関係機関も緊急時の対応について把握することができている。

#### エ. 今後の課題と展開

事業に対する補助金は、仮設住宅の供与期間の終了まで（令和2年度末）であるが、それまでに全ての方が自立することは困難な状況である。また、相談員のための個別支援では限界であり、定期的な見守りや、出水期に発生する不安定な気持ちに対応できる関係機関・専門職に引き継いでいくことが大きな課題である。

災害公営住宅は、天応地区に建設予定であるが、自宅再建の目途がたっていない方も多く、今後も継続的な見守り、相談は必要であると考えており、その方策を検討している。今後も、被災者に寄り添った支援を念頭に、発展的に継続していく。

## (2) 糖尿病性腎症等重症化予防事業について

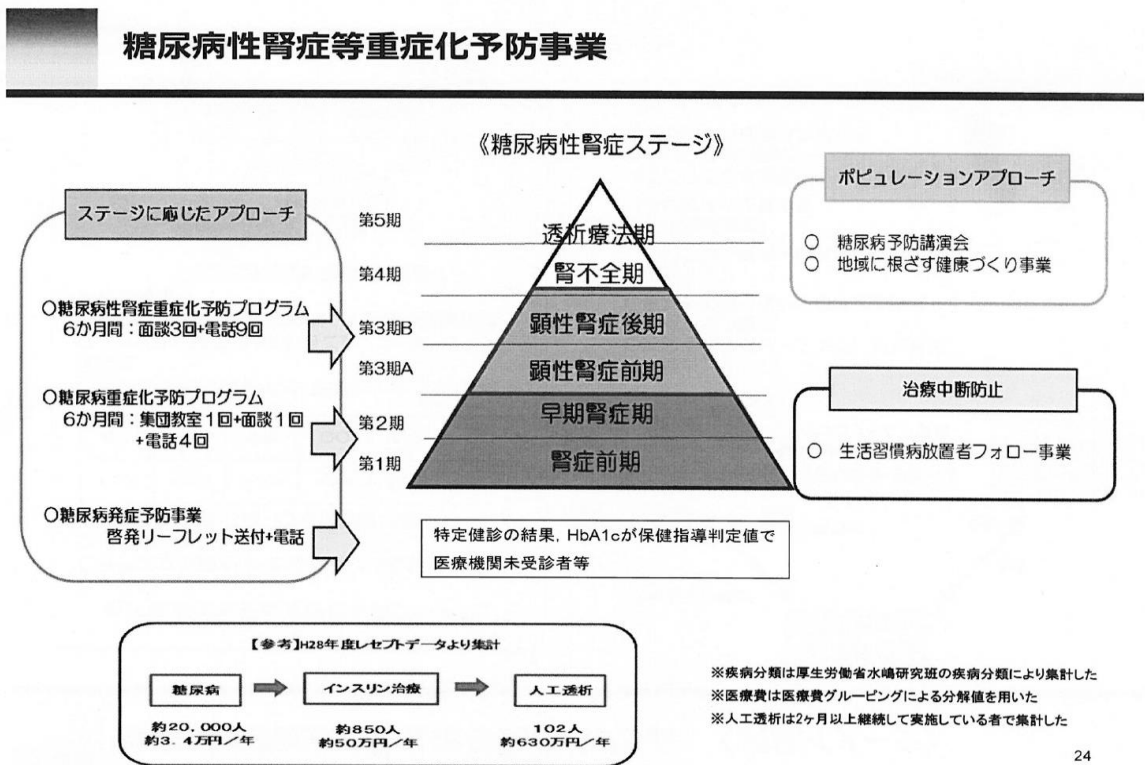
### ア. 事業導入の背景

呉市における高齢化率は34.8%（令和元年度当初）と非常に高く、国民健康保険加入者のうち約57%が高齢者である。一方で、医療機関については、400床以上の病院が3機関あるなど、

充実している。そのため、1人あたりの医療費が県の1.13倍、国の1.28倍（平成29年度）と非常に高額となっており、医療費の適正化に向け、1人あたりの医療費を抑制していくことが必要である。1人あたりの医療費が最も高額となっている疾病は人工透析であり、人工透析の原因の約4割は糖尿病性腎症であるといわれているため、その重症化予防は患者のQOL向上を図るとともに、医療費の適正化を図るという観点からも重要である。

イ. 事業の概要

糖尿病性腎症ステージは、第1期（腎症前期）から第5期（透析療法期）まであり、重症化予防のためにはステージに応じたアプローチが必要である。



(呉市資料より)

・糖尿病性腎症重症化予防プログラム

レセプトデータや特定健康診査データから対象者を抽出し、主治医にスクリーニングしてもらう。その後、参加勧奨を行い、参加同意を得られた方にプログラムを実施する。その際、主治医から治療方針を提示してもらう。

プログラムの内容は、保健指導のほか、食事の実践方法を学ぶ料理教室を開催している。また、プログラム終了後は6ヶ月ごとにフォローアップを行っている。

【参加者が実際に設定した行動目標例】

①食事

- ・ かけ醤油をつけ醤油に変える。
- ・ 夕食後の間食を控える。
- ・ みかんは他の人に配り、目の届くところに置かない。

②運動

- ・バス停は1つ手前で降りて歩く。
- ・買い物は歩いて行く。
- ・朝食後に20分散歩する。

ウ. 事業の結果

①血糖コントロールの変化

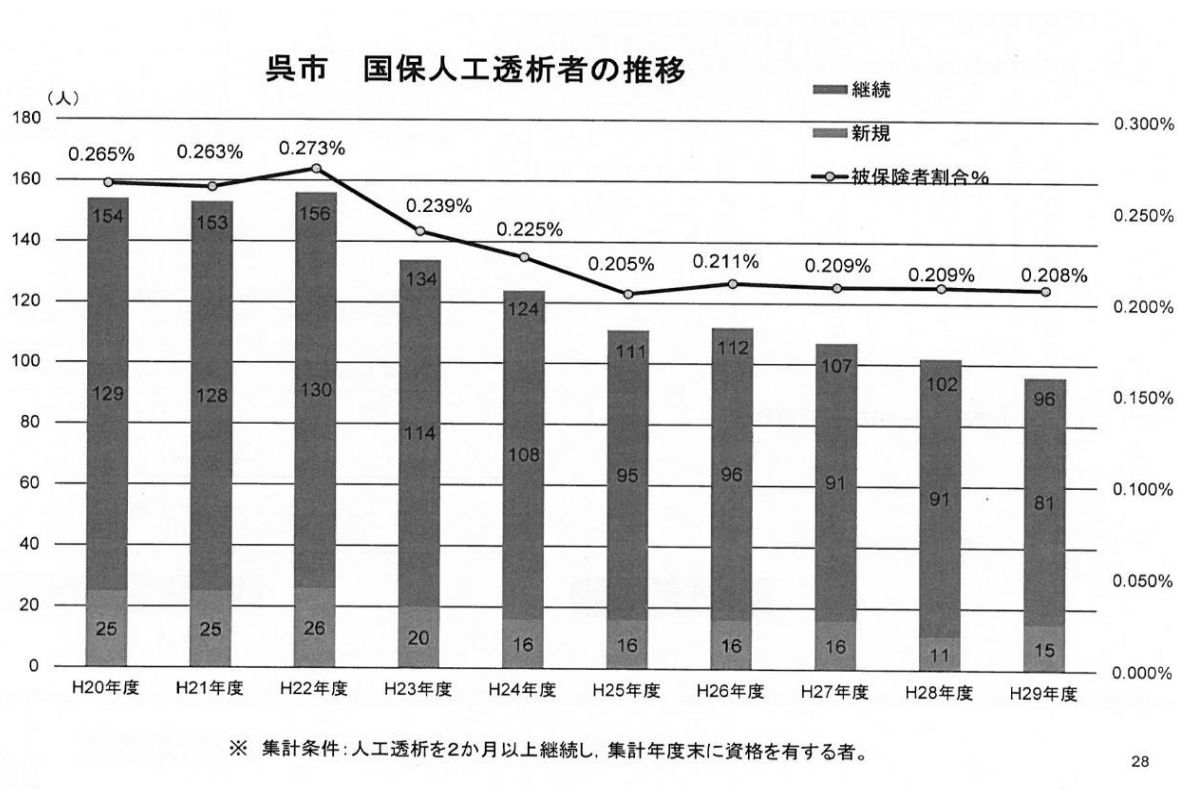
血糖コントロール区分によるHbA1cの前後比較では、プログラム参加者の8割（平成29年度プログラム修了者）が維持改善することができた。

②eGFR（推算糸球体濾過量）の変化

CKD重症度分類によるeGFR区分の前後比較では、プログラム参加者全員（平成29年度プログラム修了者）が維持改善することができた。

③人工透析者数の推移

国民健康保険被保険者に対する人工透析者数の割合は、減少傾向にある。



(呉市資料より)

3. 主な質疑応答

(問) 地域支え合いセンターの対応状況を把握するための情報共有システムについて、パッケージで対応できたのか、あるいは個別で作る必要があったのか。

(答) 保健所で利用している訪問記録等を管理する健康管理システムの中に、新たにシステムを作った。健康管理システムは庁舎でも閲覧が可能なので、地域支え合いセンターの対応状況を庁舎で確認することができる。地域支え合いセンターにあるPCについては、健康管理システムを保守する業者に対応してもらっている。

(問) 糖尿病性腎症等重症化予防プログラム参加者の中には、中断してしまう方もいたのではな

いかと思うが、そのような方に対してはどのようにアプローチしたのか。

(答) 主治医をベースとして患者から参加同意を得て事業を行っている。そのため、主治医と相談しながら患者がプログラムに取り組んでいるので、多くの方がプログラムの修了に達している。

#### 4. まとめ

近年は、想定をはるかに超える災害が多発しており、地震だけでなく、水害等にも事前に備える必要がある。また、実際に災害が発生した後は、被災者支援に継続的に取り組んでいかなければならない。地域支え合いセンターでは、被災者の自助・共助を基本に、被災者をつながる、被災者・地域住民をつなげる、被災者の課題を支援機関・団体へつなぐといった理念の下、被災者支援に取り組んでいる。

首都直下地震や荒川氾濫が懸念されている本区においても、発災後の被災者支援について、どのように関係機関等と連携していくかは大きな課題であり、地域支え合いセンターを通じた被災者をつなげるきめ細かな支援は非常に参考となった。

糖尿病性腎症等重症化予防事業については、プログラム参加者が概ね重症化予防につながっており、本事業は、患者の健康増進及び医療費の適正化という観点から重要な役割を果たしている。

本区においても、国民健康保険加入者の健康増進を図り、糖尿病重症化を予防するため、特定健康診査の受診結果を活用して、かかりつけ医と連携した保健指導等を行っているが、呉市における糖尿病性腎症等重症化予防事業は、面談、電話、集団教室など、プログラムの内容が充実しており、本区にとって大いに参考となった。



視察の様子



議場を見学

### 【愛媛県西条市】

#### 1. 市の概要

人 口 109,061人 (令和元年8月31日現在)

面 積 510.02km<sup>2</sup>

#### 主な特色

- ・愛媛県の東部、道前平野に広がる地域に位置し、瀬戸内海に面している。西日本最高峰の石鎚山を中心とする石鎚連峰を背景に、南部一帯及び西部は急峻な山岳地帯となっている。それ以外の地域は、比較的緩やかな平坦部となっており、市街地が集積するとともに、県下有数の農業地帯となっている。
- ・瀬戸内地方特有の温暖な気候に恵まれ、生活環境としても、また、産業活動のための環境としても、非常に優れた気候条件となっている。

- ・恵まれた地理的・経済的条件を背景に、四国最大級の産業都市として、飛躍的な発展を遂げている。

## 2. 調査事項

### A I ロボットによる高齢者見守り支援について

#### (1) 事業の導入の背景

西条市では、高齢者人口が急速に増加しており、2025年には高齢化率が34.5%と3人に1人が高齢者となると推計されている。更に、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年には、高齢者人口がピークに達し、社会保障費が増大することが見込まれている。このように、ますます高齢化が進行し、高齢者を見守る側も高齢化が進行する中では、人に頼る方法のみでは限界が近いと考え、ICTを活用することで、人による見守り負担の軽減を図ることができるのではないかと考えた。

また、西条市が目標とする健康都市の実現のためには、健康寿命の延伸及びQOLの向上が必要である。そのためには、高齢者のコミュニケーションの活性化を図ることで、認知症予防や寝たきり予防につなげることが重要と考え、導入に至った。

#### (2) 事業の目的

- ア. 高齢者と、離れて暮らす家族の不安の解消
- イ. 高齢者と家族とのコミュニケーションの活性化
- ウ. 孤独感や退屈感を解消し、楽しさや喜びを実感
- エ. 安心・安全な生活の確保
- オ. 認知機能や運動機能、健康維持に役立つ効果
- カ. 地域住民との交流やつながりによる住みやすさの実感

#### (3) 事業の概要

市内在住の高齢者宅に音声認識A Iを内蔵した見守りロボットを設置し、SNSを通じて離れて暮らす家族との間で写真や音声メッセージ等やりとりし、毎日のコミュニケーションを負担なく確実に実現することで、高齢者を見守るだけでなく、高齢者に楽しさや喜びを提供するとともに、「うんどう機能」を活用することにより、認知機能や健康維持に役立て、地域で生活する高齢者の暮らしを支え、健康寿命の延伸やQOLの向上につなげ、住みやすさを実感してもらおう。更に、親しみやすい形状と声で、ストレスなくゆるやかに高齢者を見守ることができる。

#### ア. A I ロボットの機能

##### ①見守り

1日3回、高齢者がロボットの前に来ると、ロボットが写真を撮って家族へ送信する。写真は、家族がスマートフォンやPCでいつでもどこでも確認することができる。なお、家族が写真を確認すると、その旨をロボットが高齢者に音声で伝える。

##### ②コミュニケーション

家族から高齢者へ、また、高齢者から家族へ音声メッセージや写真等を送信できる。

##### ③音声リクエスト

高齢者がロボットに話しかけると、ロボットがその内容に応じ返答する。内容としては、



天気予報やニュース等が挙げられる。

④うんどう

登録した動画（脳トレや介護予防の体操）を視聴することで、介護予防や健康維持に役立てることができる。

⑤声かけ

ロボットが高齢者を見つけたり、決まった時間になったりすると、声がける。

⑥緊急写真撮影

なかなかロボットから写真が送信されてこないなど、部屋の様子を緊急に確認したい時、ロボットの前面180度の写真を家族がリモコンで撮影できる。

⑦パペロライブ

照度センサーや加速度センサーの記録で、高齢者の生活の様子がわかる。

⑧月間カレンダー

1ヶ月分のメッセージのやりとりをまとめて閲覧できる。

⑨緊急連絡

ロボットにある赤いボタンを押すだけで「連絡ちょうだい」というメッセージを家族全員に送信できる。

⑩かんたんメモ

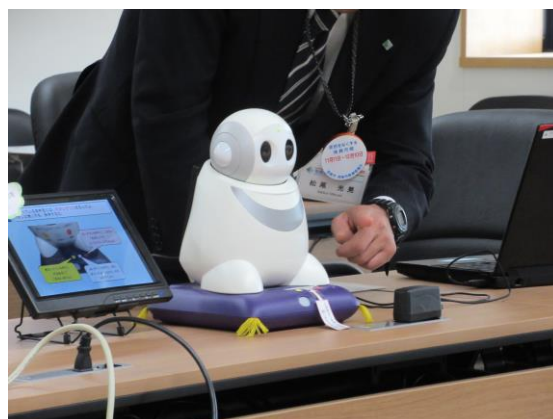
高齢者以外の家族が情報を共有するためのメモである。高齢者には伝えない。

⑪Youtube 視聴

家族が登録した高齢者好みのビデオをYoutubeで視聴できる。

⑫おしゃべり機能

ロボットに自由に話しかけて、おしゃべりできる。



AIロボットの「パペロ アイ」

## イ. 実証実験

実施期間：平成30年7月1日～9月30日

対象：市内在住の高齢単身世帯、または高齢者のみの世帯と市外在住の家族

設置台数：10台

申込者：関東4件、関西2件、中国1件、四国1件、県内2件

設置者：90代1名、80代6名、70代1名、60代2名

### ①高齢者の評価

- ・90%の高齢者が家族とのコミュニケーションが以前より良くなったと答えた。
- ・写真やメッセージの送受信が簡単で確実にできることで、ロボットをきっかけに家族との会話が増えた。

### ②家族の評価

- ・92%の家族がロボットによる見守りサービスが役に立ったと答えた。
- ・時間を気にせず、自分のペースで送信された写真やメッセージを確認できる。
- ・送信された写真により、高齢者の元気な姿を確認できる。

## ウ. 実証実験後

実証実験後の有料によるサービスの継続について、10家族中6家族が希望したため、実験終了後も継続してサービスを提供し、当初の計画を大幅に前倒しして3ヶ月後に有料でのサービスを開始した。

#### エ. 現在の利用状況と費用

- ①申込者：関東3件、関西2件、四国1件、県内2件
- ②設置者：90代2名、80代6名
- ③費用：初期費用38,500円（1/2は市の補助）、月額費用4,500円  
3週間の無料お試しサービスをまず利用することもできる。

#### (4) 今後の課題

市内在住の高齢者に対して広報紙等を通じて案内しているが、市外在住の家族に対して事業の内容を周知することが大きな課題となっている。

### 3. 主な質疑応答

(問) 今後、利用者を増やしていくために、どのように取り組んでいく必要があると考えているか。

(答) 民生委員等から見守りが必要な方の情報を得ながら、取り組んでいく必要があると考えている。

(問) 月々の利用者負担は4,500円（通信費・レンタル費）となっているが、無料お試し期間で利用する際、どのような費用負担となっているか。

(答) 通信費は市の負担、レンタル費は事業者の負担となっており、利用者の負担はない。そのため、事業者に協力を得ながら取り組んでいる。

### 4. まとめ

少子高齢化が急速に進行し、介護人材が不足する中、西条市では、AIロボットを活用することにより、高齢者支援を行っている。高齢者がロボットとコミュニケーションを図ることで、寝たきり予防や認知症予防につなげると同時に、離れて暮らす家族がロボットから送られてくる高齢者の姿を確認することで、見守りとしての効果もロボットは果たしている。

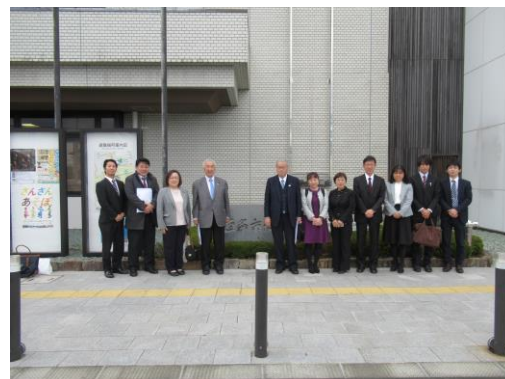
実際にロボットを導入している高齢者宅は、事業の開始当初ということもあり少ないとのことであったが、今後の利用状況など、動向を注視していきたい。

本区においては、民生委員やさまざまな関係協力機関と連携し、地域全体で高齢者の見守りに取り組むとともに、健康寿命を延ばし、自立した生活を送れるよう介護予防事業を推進している。

今後、後期高齢者が増加していく中で、介護者の負担軽減を図る施策を推進させていくことが重要である。高齢者を見守るだけでなく、介護予防の機能を併せ持つAIロボットの活用は、今後の福祉サービスを考える上で、非常に参考となった。



視察の様子



西条市役所にて

## 【愛媛県今治市】

### 1. 市の概要

人 口 158,698人（令和元年8月31日現在）

面 積 419.14km<sup>2</sup>

#### 主な特色

- ・愛媛県の北東部に位置し、高縄半島の東半分を占める陸地部と、芸予諸島の南半分の島しょ部からなる。
- ・タオル、縫製、製塩、造船などが地場産業として発展するとともに、西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）の開通により中四国の交流、流通の拠点となった。
- ・平成17年1月16日の合併により、人口約18万人となり、四国で4県都に次いで5番目、県下で第2の都市に生まれ変わった。
- ・風光明媚な景観と、大山祇神社、伊予水軍城址などの歴史遺産を誇る観光都市として、また、造船、海運都市として重要性を高めている。

### 2. 調査事項

#### サン・アビリティーズ今治について

#### (1) サン・アビリティーズ今治の概要

##### ア. 施設の設置目的

障害の有無にかかわらず、市民が交流を深めるための活動拠点として、障害者の教養、文化及び体育の向上や障害者の機能回復、健康の増進などを図ることを目的とする。

##### イ. 施設の概要

開 設：昭和61年12月3日

土 地：6,620.54m<sup>2</sup>

建 物：鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造 平屋建 延床面積1,658.58m<sup>2</sup>

休 館 日：火曜日・祝日（火曜日が祝日の場合は翌日）

12月29日から翌年1月3日

開館時間：午前9時から午後9時30分まで

指定管理者：社会福祉法人 来島会

指定期間：平成27年4月1日から令和2年3月31日まで

職員配置：グループマネージャー 1名

所長	1名（障がい者スポーツ指導員）
指導員	3名（障がい者スポーツ指導員）
事務員	2名（障がい者スポーツ指導員）
夜間担当者	2名
法人事務員	1名

#### ウ. 設置目的を果たすための指定管理者としての主な取り組み

##### ①障がい者スポーツ指導員の配置

利用者に対し、配慮の行き届いた窓口対応や個々の状況や能力に応じた適切なプログラムを提供するために、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認のスポーツ指導員（上級1名・初級5名）を配置している。

##### ②今治市障がい者団体連合会・今治市障がい者相談員の事務局

今治市障がい者団体連合会（15団体所属）・今治市障がい者相談員（22名）の事務局として職員2名が従事し、「今治市障がい者（児）体育大会」・「わいわいフェスタ」等の行事や理事会の開催など、障害者の活動拠点として協力している。

##### ③ボランティアの発掘・育成

イベントや講座の開催時において、障害者へのサポート体制を整えることを目的とした「サン・アビススポーツボランティア」を発掘・育成する。平成30年度末で33人の登録者がおり、イベントでは道具運搬、進行補助、障害者補助などを、講座では練習参加、教室サポートなどを依頼している。

##### ④自主事業

- ・定期講座（スポーツ教室18講座、教養文化趣味講座6講座）の開設

利用者…1,959名（内、障害者526名 平成30年度実績）

- ・夏期講座の開催（4講座）

利用者…63名（障害者含む。平成30年度実績）

- ・主催行事・大会の開催

アーチェリー場を備えているため、アーチェリー大会を開催するなど、アーチェリーを通じて障害者と親睦を図っている。その他、車いすバスケットボール大会など、色々な行事・大会が開催されている。

#### (2) 市民との交流

講座や教室、大会や行事について、障害者だけでなく、一般の方も参加できるように計画・実施し、日常的に交流を図りながら、障害者への理解を深めてもらえるように努めている。また、地域の学校を対象に「福祉体験」を実施し、家庭から地域へ福祉の輪を広げることにより、障害者が身近な地域で気軽に活動できる環境づくりを行う。

#### (3) 職業相談・生活相談

- ・職業相談

日時：第1・第3木曜日 午後1時30分から午後3時まで

協力：今治公共職業安定所、障害者就業・生活支援センター「あみ」、愛媛県障害者相談員

実績：平成27年…16件、平成28年…5件、平成29年…10件、平成30年…12件

- ・生活相談

日時：第2・第4木曜日 午後1時30分から午後3時まで

協力：今治市障がい者相談員

実績：平成27件…7件、平成28年…2件、平成29年…0件、平成30年…3件

#### (4) 施設利用による効果

障害の有無にかかわらず、市民が交流を深めるための活動拠点として、障害者の教養、文化及び体育の向上や、障害者の機能回復、健康の増進などを図っている。施設を利用することで地域の人々とのつながりができ、居場所ができるとともに、目標や生きがいとなっている。

#### (5) 今後の課題と展開

施設の耐震基準は満たしているが、建築後33年を経過しており、施設の老朽化が進んでいる。今後、施設を長寿命化させるための大規模改修、あるいは改築など、管理運営方法を含めた施設のあり方方針を策定する必要がある。

また、サン・アビリティーズ今治は指定避難所に指定されていることから、昨年度より地元自治会等と協力して避難所開設訓練を実施している。今後は指定管理業務だけでなく、利用する障害者を含む地域住民が集まる指定避難所としての機能も果たしていく必要がある。

### 3. 主な質疑応答

(問) 施設の利用割合について、障害のある方と、そうでない方では、それぞれどのような利用割合となっているか。また、施設の稼働率はどのような状況であるか。

(答) 障害のある方が2割、そうでない方が8割の利用状況となっている。なるべく障害者優先で施設を利用してもらえよう、障害者に対しては施設の予約時期を早めるなどの対応を行っている。施設の稼働率については、ほぼ毎日利用されている状況であり、突発的に利用することは難しい。

(問) 障がい者相談員の名簿の内容について、住所・電話番号まで公開しているが、なぜそこまで公開しているのか。

(答) 障がい者相談員のほとんどは障害者団体の役員で、障害者にとって身近な相談員であるため、本人の了解を得た上で公開している。

### 4. まとめ

サン・アビリティーズ今治は、障害者を中心としたスポーツ施設として、障害者の教養、文化及び体育の向上や、障害者の機能回復、健康の増進だけでなく、施設を利用することで地域の人々とのつながりや居場所の確保等にも役立っている。また、スポーツ等の行事・大会だけでなく、職業相談・生活相談にも対応しており、障害者に対するさまざまな側面からの支援は、障害福祉に関する取り組みを考えていく上で非常に重要であると考えさせられた。

障害の有無にかかわらず、互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながら共に生きていく共生社会の実現のためには、健常者が障害者についての理解を深めることが大切であるが、両者が交流を深める拠点をなかなか見出せないことが大きな課題である。本区においては、今後松が谷福祉会館の再整備を行っていくが、障害の有無にかかわらず、市民が交流を深めるための拠点づくり等について考えていく上で、サン・アビリティーズ今治の取り組みは非常に参考となった。



視察の様子



サン・アビリティーズ今治前にて